

今話題の「事前販売」で、在庫・金銭リスクをゼロへ！

大小あらゆるイベントで大活躍のハイブリッド物販アプリ

EventOrder

サービス概要資料

～事前・当日の両輪でイベント物販を最適化～

株式会社ALBA

2026年3月

イベント物販が抱える「3つの課題」

現在のイベント物販では、運営側・お客様双方に以下のような課題が発生しています。



1. 現場運営の限界

大量の小銭準備、レジ締め、
釣り銭ミスリスク。
「当日どれだけ売れるか」予測困難による、
在庫の抱えすぎ・売り逃し。



2. 「事前通販」の限界

お客様の送料負担による購買
ハードルの上昇。ライブ2週
間前には納品が必要な、タイ
トすぎる製作スケジュール。



3. 当日の機会損失

長蛇の列による、お客様の体
力的な負担と購入断念。事前
販売における「受取時間枠」
完売による購入機会の喪失。

解決策：EventOrderの「ハイブリッド物販」

EventOrderは、「事前販売」と「当日販売」を一つのシステムで完結させることで、物販全体の課題を一挙に解決します。



【強み①】現場負担の劇的削減

人手不足の現場でも、安全かつ身軽な運営を実現します。

釣り銭・レジ締め一切不要

事前決済済みのため、当日の現場業務は「商品を渡すだけ」

メリット:

- ・釣り銭準備やイベント後のレジ締め作業がゼロ。
- ・金銭トラブルのリスクがない。
- ・物販専任スタッフを確保できない「少人数・ワンオペ現場」でも安全に運営可能。

在庫リスク・物中コストの縮小化

「売れるかわからない在庫」を大量に抱える必要なし

メリット:

予約された「確定分」だけを持ち込めば OK

当日販売とのハイブリット販売の場合でも事前販売からある程度の予測値を立てることができます。

大量の搬入コストを削減。

売れ残りを着払いで送り返す無駄な手間と送料をカットし、身軽な運営を実現。

【強み②】 「事前通販」 から 「会場受取」 へ

従来の「事前通販」から、EventOrderの「会場受取」へシフトすることで、運営・顧客ともに大きなメリットがあります。

比較項目	従来の「事前通販」	EventOrder「会場受取」
【お客様】 送料と購買率	お客様に送料負担が発生。 購買ハードルが上がる。	送料ゼロ 購買ハードルが大幅に下がります。
【運営側】 納品と製作期間	発送期間が必要なため、ライブ2週間前納品など 極めてタイト 。	発送期間が不要なため、 ライブ直前まで製作期間を確保 できます。
【運営側】 発注メリット	初動の受注数を見て発注できる。	初動の受注数を見て発注できる メリットはそのまま 活かせます。

【強み③】 機会損失を防ぐ独自の仕組み

大規模イベント（数万人クラス）でも「買えない」をなくし、売上を最大化します。

🕒時間枠撤廃（フリーフロー方式）

「期間中いつでも受取可能」な仕組みを採用。時間枠完売による購入断念（カゴ落ち）を防ぎます。お客様の到着時間に合わせた自然な分散効果で、行列も回避します。

📱当日の「レジスキップ機能」

列に並びながらスマホで注文・決済を完了。専用窓口でQRコードを提示するだけの超高速回転で、当日の衝動買いニーズを最速で捌きます。

圧倒的な「安心と信頼」の インフラ

5年間、累計30万件の処理実績において、
「サーバーダウン・情報漏洩事故ゼロ」

✓ **現場に個人情報を出さない「鉄壁の管理」**

現場端末（iPad）や帳票には「注文ID」と「商品」のみを表示。氏名や電話番号は現場スタッフの目に触れず、短期アルバイトでも安全に運用可能です。

✓ **止まらないシステム（オフライン対応）**

通信断絶時でもレジ業務を継続できる「オフラインモード（POS）」や、紙の納品書リストを用いたアナログ運用にも対応しています。



ご利用イメージ

運用スタイルA：大規模イベント向け「事前梱包（納品書）運用」

圧倒的な回転スピードを実現する「アナログ×デジタル」



事前準備：納品書を出力し袋詰め。番号（A0001）を貼付。



当日：お客様がアプリで引換番号を提示。



引渡：スタッフは番号の袋を探して渡すだけ。

メリット： 最速の引き渡し（数秒/人）、ピッキングミス撲滅、オフライン対応可能。

ご利用イメージ

運用スタイルB：中小規模・直前搬入向け「QRコード（ペーパーレス）運用」

準備不要・在庫流動性を確保する「完全ペーパーレス」



当日：お客様が受取用
QRコードを提示。



スキャン：iPadに商品が表示され、その場でピック。



完了：画面タップで
消し込み完了。

メリット：準備コスト・ゼロ、在庫の柔軟性確保（事前/当日分の固定不要）。

導入までの流れ

最短で約1週間での導入・運用開始が可能です。

